

北関東・東遊記 2021



2021年7月

旅のチカラ研究所 植木圭二

関西在住の友人たちが関東に来るといっているので、関東在住の私が旅を企画した。事前に旅のテーマも設定してみた。おっさん4人の西遊記ならぬ東遊記を紹介する。

序章 おっさんたちの旅

■旅にはテーマが欲しい

今回一緒に旅する友人たちは関西在住なので関東はあまり馴染みがない。それでも彼らとは地球一周の船旅で知り合ったので旅のベテランで、当たり前な旅行プランでは物足りないと思いつて事前に旅のテーマを設定することにした。

私は常々、旅にはテーマや目的が重要だと主張している。そういうものを決めておくと旅先で何をするか、予定を変更せざる得ない場合でもどう変更するかの判断基準になる。そしてテーマはひとつである必要もなく、複数でも優先順位をつけておけば良いと思っている。

今回の旅に望むことは関西の友人たちと一緒に「飲んで、浴して、見て学ぶ」ことで、それらを具体的にするために以下の4つテーマを設定した。優先順位は掲げた順番になる。

- ・名湯を堪能する
- ・信仰の世界遺産を訊ねる
- ・コテージ、高級宿、重要文化財の宿などバラエティに富んだ宿に泊まる
- ・梅雨で水量が豊富なことを活かして滝巡りをする

今回の旅を企画する直前、私は世界遺産検定1級を受験した。そのため世界遺産のテーマも設定した。その世界遺産検定については第六章で説明する。

■おっさんたち

今回の旅人は私を含め4人、私以外は関西在住でほぼ同世代の60代のおじさん、いや関西風に言えば“おっさん”だ。ちょうど5年前に106日間の地球一周の船旅で知り合い、船内の居酒屋で毎日飲んでいた面々で、5年後の節目だから旅をしようと今回集まった。

メンバーの紹介をする。ヨコさんは船内では水彩画教室に入っていたカメラ好きのヨットマン、男の手料理はお手のものだ。ヒデさんは船内では英会話教室に通っていたゴルフ好き、その腕前はプロ級で、帰国後に私も一緒に何度かプレーしている。ヨシさんは船内ではフラダンスを習っていた山男、帰国後マッターホルンに登り、日本国内をバイクで旅をしながら山に登っている。あえて説明することもないが、全員お酒大好きな楽しい人たちだ。

そしていよいよ関西の3人が車でやってきて、神奈川の私が山梨県北杜市小淵沢駅まで電車で行って合流、車1台の和気あいあいの“おっさんたちの旅”が始まる。

第一章 手はじめに甲州、信州

■暖炉があるコテージ

小淵沢駅で落ち合って久しぶりの再会を喜び、食料や酒の買い出しをして長野県との県境に近い山梨県清里高原の「清泉寮」に到着する。

本日泊まる清泉寮は、1938年キリスト教の聖徒アンデレ同胞会が指導者訓練キャンプ場として始めて、大自然の中で青年指導者養成のための修養会、自然学級の使命を果たしてきた。木のぬくもりが感じられる建物は学校や企業の研修はもちろん個人客も利用できる。

実際に体験すると広大な土地に建物が点在しており、ホテルやレストランは格調高く、大浴場もある。早速私たちは大浴場に直行し、露天風呂で裸の付き合いを楽しむ。高原の空気の中での露天風呂は爽快だ。



【清泉寮 レストランの前のおっさんたち】

今回はコロナ禍ということもあって、他のお客を気にすることなく楽しめるコテージを予約した。コテージは2ベッドルームが2部屋で定員4人だが、食器や椅子などは6人分あり寝袋を持参すれば6人泊まれるだろうと、おっさんたちは口にはしている。早速次回の予定が決まりそうな勢いで、それほどこのコテージを気に入ってしまったようだ。

気に入った理由のひとつは立派な暖炉が付いていることだ。受付のお姉さんが「暖炉を是非お試しください」と言って1回分の薪や焚き付けをもらってきた。「夏だから多分暖炉は使わないよ」などとおっさんたちは言うてはいたものの、どうしてどうして夜になると結構寒い。それもそのはずここは標高1300mもある。

夏でもリゾートには暖炉は最高の贅沢だ。夜遅くまで火を燃やして酒を酌み交わし、宴が繰り広げられた。私が持参した地球一周の船旅のDVDを見ながら、今回参加できなかった仲間たちに電話を掛け、国内や海外の仲間もリモートで参加して、思わぬ同窓会で楽しいひと時を過ごすことができた。それにしてもヒデさんは完全に“電話魔”になっていた。



【コテージの内部 暖炉】

■美ヶ原へ

この付近にはJR小海線が通っており、標高1375mのJR最高標高地点がある。まずはあいさつ代わりに最高標高地点に立ち寄ってみると、そこには最高地点を示す立派な碑と小さな社（ほくら）のような神社がある。神社のご神体はSLの車輪というから面白い。

2日目は草津温泉に行けばよいので、比較的楽な行程になっている。当初は軽井沢を抜けて行こうと考えていたが、ヨコさんのリクエストでビーナスラインを走って美ヶ原に立ち寄って行くことになった。

ビーナスラインはヨコさんの思い出の道路らしい、おそらく若い頃に彼女とドライブでもしたのだろう。私も若い頃に何度か走った覚えがあるが、確かに景色は良かったが有料道路で通行料金が高かったような記憶がある。

松原湖から蓼科方面に向かいビーナスラインに入る。しかしながら今は梅雨時、雨模様の曇り空で景色を楽しむことはできない。それでいて道幅は比較的狭く、くねくねと曲がっていて舗装状態もあまり良くない。昔のビーナスラインのイメージではなかった。

ビーナスラインのほとんどの区間を走ったが有料区間はなく、無料ならば致し方ないという空気が車内には漂っているが、ヨコさんはこんなはずではなかったという顔をしていた。

美ヶ原に着いて、私が大学1年生の夏休みに友人に誘われてここの山本小屋というホテルでアルバイトをしたことを思い出した。

アルバイト料は安いが自由時間もあるから高原に遊びに来る若い女の子たちと話げできて面白いぞ、という誘いだったが、実際に行ってみると仕事は朝6時から晩10時まで休む間もなく働き、女の子と話をする時間など全くなかった。

さらに経営手法に驚いた。美ヶ原は牛が放牧されているので、当然のように搾りたてという牛乳を販売していた。ところがその牛乳は私たちアルバイトが地下の倉庫で市販の紙パックの牛乳をバケツに開けて、そのバケツを持ってくるので中味は普通の牛乳だ。それをお客は「牛の香りがする」とか言って飲んでいて、あるいは美ヶ原特産馬鈴薯と称してジャガイモを蒸かして売っていたが、これは段ボールを見たら長崎馬鈴薯と書いてあった。

そんな 50 年近い昔の話を車の中で話したら、「その牛乳を飲んでみよう」とおっさんたちは意気込んで山本小屋に行くことになったが、宿泊者以外立ち入り禁止になっていた。

第二章 上州、草津温泉

■草津の温泉街

上州（群馬県）の名湯、草津温泉に到着する。

草津温泉はそのシンボルともいえるべき湯畑を中心に店や旅館が広がっており、私たちは早めに宿にチェックインして湯畑周辺をタオル片手に散策することにした。平日の午後、梅雨時とコロナ禍ということでいつもの草津よりも人通りは少ないように感じられる。

湯畑で写真を撮る若いカップルに声をかけて「どこから来たの？」と聞くと「埼玉」と返ってきた。すると彼らから「どちらから？」と聞き返されて、こちらの出所がバラバラなので「どういう間柄ですか？」とまた聞き返され、「世界一周の船旅で知り合った仲間で・・・」と答えた。それを聞いたカップル 2 人の反応が全く同じで、ほぼ同時に「エー、それ理想ですね！」という言葉を出した。

若いカップルとの何気ない短い会話だったが、私たちは何て幸せな旅をしているだろうかと気が付いた。そもそも地球一周の船旅に出たこと自体が幸せで、そこでの出会いによってまた楽しい旅に出ているというこの上ない幸せを改めて感じるようになった。



【湯畑を背景に“おっさんたち”】

湯畑は芸術家の岡本太郎が今の形にした。それを知る人は少ないが湯畑の湯滝の前にその記念碑がある。記念碑の前に立って私が 3 人にそのことを説明すると、関西の彼らにとって大阪万博の太陽の塔を創った岡本太郎は身近な存在らしく、グッと興味をもったようだ。

草津町の人口は約 6 千人、小さい町なのに活気があるように思える。その理由は観光客が多く訪れ、その客層が比較的若いからだと思ふ。さらに街で働く人たちも若者が多い。

ザ・スパ草津（正確にはザスパクサツ群馬）という J リーグのサッカーチームもある。ザ・スパ（The SPA）という名前もユニークで、優勝祝賀会ではビール掛けならぬ“温泉掛け”をやっていた。草津温泉の不思議な魅力に若者が吸い寄せられ、そして結果を生んでいる。

街の食堂や飲み屋でその若いサッカー選手たちがアルバイトをしている。彼らは草津名物の湯もみショーで湯もみをすることもあり、若さやその肉体美に年配女性たちが黄色い声援を送っている姿が時々テレビで紹介される。

湯もみショーは湯畑のすぐ脇にある「熱乃湯」でやっているのだが、今回は湯もみショー見物を予定に入れていなかった。私にとってはあまり興味がないからだが、滅多に来られないので関西の 3 人は湯もみショーを見たかったようだ。やはりその地域を代表する名物は旅の行程に組み入れる検討や、せめて一言聞く必要はあるだろうと、いい勉強になった。

■草津の湯は強酸性

草津の湯は私が兼ねてより日本一と言ってきた。しかし関西からは遠く、アクセスも不便なのでなかなか訪問機会が少ないので、今回の旅の第一のテーマは草津の湯を堪能することとした。

草津の湯は、何と言っても強酸性、酸が強いで殺菌力があって傷を治すなどの効果がある。だから万病に効くとか、草津の湯で治せないのは恋の病だけだと昔から言われている。

酸性度を表す単位は pH（ピーエイチ、またはペーハー）で、pH の範囲は 0～14、真ん中の 7 が中性でそれより数字が小さいと酸性、大きいとアルカリ性を示す。人間の体液は 7.4 程度、草津の湯は 1.6～2.1 ということで極めて強い酸性で、草津の湯に五寸釘を浸けておくと一週間で溶けて無くなるという。

強酸性が売りの草津温泉は“泉質主義”を掲げており、強酸性の湯の効果を保つために昔から絶対に水で薄めないというポリシーがある。そのために“湯もみ”をして温度を下げるという伝統文化が生まれた。

■外湯を巡る

草津温泉には無料で入浴できる共同浴場が 18 カ所ある。昔は観光客も地元の人に混じってどこでも入浴できたが、最近は旅行者にはこれから私たちが入る 3 カ所のみを推奨している。

湯畑で湧き出ている湯畑源泉を見てから、まずは湯畑を少し下ったところにある共同浴場「千代の湯」に入る。湯船は大人 4 人でいっぱいになるサイズなので、先客がいないことを確認して入ったので貸し切り状態だ。

この湯は湯畑源泉を使用しており、日によっても時間帯によっても湯の温度が変わる。本日はやや熱い程度で、人間温度計を自認する私の判定では 42℃位、比較的入浴し易い。私が草津の湯は絶対に水で薄めないから熱いのを覚悟しておいてと何度も 3 人に説明していたが、やや拍子抜けの入浴になった。それでも強酸性のピリピリ感は強烈だったようで、「これは傷に効くー！」とヒデさんが騒いでいた。

次に地蔵源泉の隣にある共同浴場「地蔵の湯」に入る。先客が3人ほどいたが湯船には入っておらず、湯船の周りの板の間に座って温泉談議をしている。さりげなく話を聞いていると沖縄から来た旅行者と地元の人らしい。草津温泉の効能やウンチクを地元の人が誇らしげに話していた。

湯は結構熱く、ヨシさんとヨコさんはヒイヒイいいながら入浴している。温度は44℃位だ。

湯畑の直ぐ上にある光泉寺の階段下にあるグツグツと湧き出る白旗源泉を見てから共同浴場「白旗の湯」に入る。ここは熱いのが有名で、あまりの熱さなので自己責任で入ってくれなどと書かれた張り紙もある。

湯船は2つあり、先客にぬるい方を教えてもらい早速浸かってみる。確か、ぬるい方を聞いたはずだが、とんでもなく熱い。私は何とか肩まで浸かり30秒くらい頑張った。ヨコさんは足までしか入れない。先客に温度を訊ねると、ぬるい方で46℃、熱い方は48.5℃だという。

私は意を決し入浴を試みる。しかし肩まで浸かって3秒間が限界だった。それでも先客は3秒間持ったことを褒めてくれた。ヒデさんも頑張って3秒間耐えた。

「西の河原大露天風呂」に行く。ここは有料で入湯料600円と書かれていたので、今回の会計担当のヨコさんが2400円を支払おうとすると、受付の若い女性が「皆さん浴衣を着ているのでお一人500円です」と言う。何となく儲かった気分になり気持ちよく暖簾をくぐった。

源泉は万代鉦（ばんだいこう）から湧き出る万代源泉を使用している。広い湯船なのでぬるいところ熱いところを自由に選んで入ることができる。

この露天風呂はとにかく広く、日本国内の露天風呂の中では最大級だろう。男湯女湯合わせて500㎡というので50mプールの半分弱だ。これ以上大きな露天風呂は私の知る限りアイスランドのブルーラグーンしかない。ブルーラグーンは地球一周の船旅で立ち寄って、とにかく広く50mプール4個分もあった。



【西の河原露天風呂 公式HPより】



【アイスランドのブルーラグーン】

■老舗高級旅館の湯

草津温泉では老舗の高級旅館「草津ホテル」に泊まる。いつも安宿を選ぶ私だが、今回はいろいろな宿に泊まるというテーマもあって草津ホテルを選んだ。

この宿は1913年創業でその当時の趣を残した木造建築で、その古さと現代風の良さを上手く調和した造りになっており、老舗高級旅館と呼ぶにふさわしい名旅館だ。



【草津ホテルの外観 玄関】

源泉は万代源泉と西の河原源泉の 2 種類引いており、2 つの浴槽に両方の源泉の湯が並んで満たされ比較しながら入浴できる。とはいってもこの 2 つの源泉の差を分かる人は少ないだろう。それは高級宿では熱交換器によって水で薄めることなく温度を下げて、どちらも同じくらいの入り易い温度にしてある。以前来た時に女将に聞いたら草津の湯が熱すぎるという声が多くあって、41℃位の誰でも入れる温度にしてあると言っていた。

風呂は最近リニューアルしたので真新しく気持ち良い。高級感と清潔感、古き良き伝統を巧み取り入れている。おっさんたちは「もはや極楽だ」とも言って入浴していたのが印象的だった。

草津温泉の源泉で町役場が管理している源泉は 6 つあり、今回入浴したのが湯畑源泉、地藏源泉、白旗源泉、万代源泉、西の河原源泉で、残りのひとつ煮川源泉には入浴していない。そのことを 3 人に伝えると「煮える川か、相当熱そうだが、挑戦しにまた来たいね」とヒデさんが言っていた。

■アワビが飛び跳ねる

草津ホテルはさすがに高級旅館、どれも手の込んだ料理で実に美味しい。全部を説明していると切りがないが、特に鯨の酢の物と上州牛の牛鍋は絶品だった。

アワビの陶板焼きには驚いた。陶板に殻付きの活きたアワビを乗せて透明な強化ガラスのボール状の蓋をかぶせて下から固形燃料の火で炙るというもので、熱さでアワビがくねくね動く姿が何とも残酷、見ようによっては妖艶に見える。おっさんたちは「若い女性は悶えちゃうね」などと言っている。最後に出来上がりの合図のように殻からアワビが勢いよく跳ねて終わるのだが、この跳ねる時に「ポン！」と大きな音がする。その時に外に飛び出ないように強化ガラスの蓋をしているのだろう。

バターを付けて食べる。これが意外に柔らかくて、もちろん美味しい。この演出と味には自称グルメのおっさんたちもさすがに驚き、恐れ入った。

■片岡鶴太郎美術館

俳優の片岡鶴太郎は草津ホテルの館主と縁あって、草津ホテルで創作活動を行い、1998年ホテルに隣接する片岡鶴太郎美術館をオープンさせた。

私はこの宿には何回か泊まりに来ていたが、片岡鶴太郎美術館に入ったことがなかった。宿泊者割引もあるのであって良い機会だから入って見ることになった。

ユニークで見ごたえのある作品が150点展示されており、改めて片岡鶴太郎を見直したというのが正直な感想だ。やはり名物名所を見学しておくべきだと、またもやいい勉強になった。



【片岡鶴太郎の作品】

■草津温泉周辺

草津温泉から四万温泉に向かう国道145号線沿いに八ッ場（やんば）ダムがある。重力式コンクリートダムで堤高は116mとそんなに大きくはない。

このダムは民主党政権時代に建設工事中止をして有名になった。それゆえ住民の理解を得るために見学ツアーが行われ、ダムの堤防の下に出られる見学用のエレベータまで設置されている。もちろん無料で見学できる。

今回はそのエレベータに乗ってダムの下から堤防を見上げてみた。なかなか味わえない体験になった。おっさんたちは皆満足している。

ダム湖にかかる高さ45mの橋からバンジージャンプをやっているが、残念ながら本日はその開催日ではなかった。料金を聞いたら1回11000円というからいい値段だ。

第二次世界大戦中にこの付近で採れた鉄鉱石を輸送するために貨物専用の太子（おおし）線という線路が作られた。もちろん今は廃線となっており、その積み出し駅の「旧太子駅」に立ち寄った。ここには鉄鉱石積込設備（ホッパ）の基礎部分が残されている。復元された駅舎も含め、独特の趣がある。この旧太子駅を見て思うことは、人間と鉄、鉄道の力、発展と衰退などいくつかあるが、やはり旅は歴史を教えてくれる。

「チャツボミゴケ公園」という珍しい公園が草津温泉の北方向の中之条町六合（くに）地区にある。チャツボミゴケはコケの一種でpH2~4くらいの強酸性の温泉水が流れる場所に育つという驚異的なコケで、チャツボミゴケ公園の穴地獄が日本最大の群生地になっており、他に類例のない景観だと案内の看板には書かれている。

この強酸性の温泉水が流れ出る緩い滝のような流れと、チャツボミゴケの黄緑色の光景は確かに珍しい。

似たような光景としてクロアチアのプリトヴィツェ湖群国立公園が私の頭に浮かぶ。実は草津でチャツボミゴケ公園を見てからクロアチアに行ったので、プリトヴィツェ湖群国立公園に行った時にチャツボミゴケ公園を思い出した。残念ながらスケールでは全く及ばないが、何となく似ている。



【チャツボミゴケ公園の穴地獄】



【プリトヴィツェ湖群国立公園】

第三章 上州、四万温泉

■四万温泉は草津の仕上げ湯

草津温泉の東の方向に直線で約 18km のところに四万温泉がある。直線では大した距離ではないが、山ふたつあるので迂回して行くと約 50km、歩くとほぼ 1 日かかる。

四万温泉は四万川と親湯川の合流地点を中心にして約 3km 溪流沿いに温泉街が連なっている。そのため草津の湯畑のようなものはなく、立地環境としては厳しい。規模や活気についても草津温泉に比べるとどうしても“ひなびた感じ”の温泉街だが、この温泉地は草津温泉と共に繁栄してきたという。江戸時代は、四万温泉は江戸から草津温泉に湯治に来た人たちの帰り道になるので、草津の強酸性の強烈な湯に浸かった後に“草津の仕上げ湯”あるいは“直し湯”として立ち寄っていた。

pH は 6.6 前後でほぼ中性の柔らかい感じがする湯で、草津ではできない“飲泉”が可能で飲泉所もある。

■重要文化財の宿

私がこの四万温泉をはるばる関西から来た 3 人に案内する理由は「積善館」という宿にある。積善館という名前は関善兵衛（せきぜんべい）を名乗る館主によって代々受け継がれてきたもので、元禄 4 年（1691 年）に当時の関善兵衛が積善館（現在の本館）を作ったという。

そのため建物は元禄時代、そして「元禄の湯」という風呂もある。風呂はタイル張りなので元禄時代ではないだろうが、国の有形文化財になっている。

3~4 人が入るといっぱいになる小さな湯船が 5 つある。ヨシさんは「この湯船は旅人同士が会話するにはちょうどいいサイズだね」と言っている。確かに風呂はコミュニケーション

の場で、その役目を十分に果たせるように思える。

友人と話をする以外にも、古き良き時代にタイムスリップした気分になるので、亡くなった親や先祖と一緒に入浴しているような気分にしてくれるから不思議な湯である。私はその何とも言えない“まったり感”が大好きである。



【積善館の元禄の湯】

建物も歴史があるので重要文化財になっており、そのために火を使うことが許されず、本館に泊まる宿泊者の食事は弁当になる。弁当は大広間で食べるようになっていたが、私は何度か宿泊しているので部屋に持ち帰っても構わないことを知っており、当然のように部屋に持ち込んだ。やはり飲みながら他愛のない話で盛り上がる食事は楽しい。弁当は以前来た時よりも充実しており、三重の折で見たくも味も十分に満足できる。

元禄時代の建物とは言っても泊まるのにはそんなに不便はない。エアコン、冷蔵庫、テレビもあり、トイレが部屋にないくらいだが、共同トイレは清潔で、もちろん水洗だ。

この宿はスタジオジブリの宮崎駿のアニメ映画「千と千尋の神隠し」のモデルになったという宿で、観光客にとっても人気がある。もっともこの映画のモデルになったと名乗っている宿や場所は日本各地にあり、台湾にまでもある。

もちろん宮崎駿は何処だと言明していない、おそらくいろいろな場所の要素を取り入れてイメージを作りあげたのだろうが、私はこの積善館が最も彼に影響を与えたと思っている。

積善館本館は溪流沿いの狭い土地にあって背後は山になっている。その背後の10~20mく

らの山の上に佳松亭と山荘という新館がある。本館から新館に行くには山の斜面を横に掘ったトンネルがあり、その先に真上に登るエレベータが設置されており新館に出ることができる。このトンネルは「浪漫のトンネル」と呼ばれている。

これを新館から本館に行こうとすると、エレベータで下に降りてそこから浪漫のトンネルを歩いて元禄時代の本館に出ることになりタイムスリップしたような気分になる。それが映画「千と千尋の神隠し」の最初のシーンで親子3人がトンネルを抜けて昔の街にタイムスリップするのと重なる。本館の前には溪流が流れているので赤い橋がかかっており、それはもう映画の世界そのものだからジブリファンは是非訪れたい宿だ。



【積善館の本館と赤い橋】



【浪漫のトンネル】

新館にも大浴場や露天風呂があつて、本館に泊まっても新館の風呂にも入ることができる。新館は高級旅館となつており露天風呂はそれなりの品格があつて落ち着きがある。それは湯船を囲む石に大きな石を使っているからかもしれない。ヨシさんはその露天風呂が気に入ったようでいつまでも入っていた。

新館は和の趣を残しながらも近代的な高級旅館で、宿泊料もかなり高い。私は一度だけ山荘に泊まったことがあるが落ち着きがあつて実によかつた。その山荘には宮崎駿も泊まったと宿の人から聞いた。ここがああの映画の原点になっているのだろう。

■東洋のナイアガラ

群馬県沼田市の外れに「吹き割の滝」という関東地方では比較的有名な滝がある。それゆえ「東洋のナイアガラ 吹き割の滝」という看板が出ている。この看板を見て、関西の3人は吹き出しそうになっている。もちろん全員が本物のナイアガラの滝を見ており、こんな群馬の片田舎（失礼？）でナイアガラと言われても笑止千万だという気持ちなのだろう。

そんな3人の気持ちは私も十分に理解できる。本物のナイアガラの滝には到底かなわないことや、“東洋の”を付けても言い過ぎだとは思ふ。ただし今は梅雨時、水量が豊富なので意外に迫力があるかもしれないと淡い期待を込めて、皆を案内した。

駐車場に車を置いて、5分も歩くとその東洋のナイアガラが目の前に広がり始める。期待どおり結構な水量で勢いよく水が落ちている。それを見て3人の表情が変わったのが分かった。口々に「結構凄いね」、「やるじゃないの」などと言っている。



【吹き割の滝】

どうやら東洋のナイアガラはおっさんたちにお墨付きをもらったようだ。群馬県出身の私としては何故か嬉しくなった。

第四章 野州、日光

■日光の三滝

栃木県は野州（やしゅう）と呼ばれていた。群馬県は上野（こうづけ）で上州、栃木県は下野（しもつけ）でも下州とは呼ばずに野州と呼ぶ。さすがに下州ではまずいのだろう。

昔は京の都から近い方から上下、あるいは前後などと国名が付けられていて、群馬の方が京都に近いから上州、あるいは越前・越中・越後などもそうだ。おっと話が少しそれた。

その野州に沼田から入るには金精峠経由が最も近い。とは言っても峠の標高は 2024m もあり、昔は峠越えが大変だった。今でも冬季は雪が深く通行止めになっている。

私たちは金精峠、正確には金精トンネルから下って日光湯元にでてきた。そこには湖面標高 1478m の湯ノ湖があり、湯ノ湖から流れ落ちる「湯滝」があり、湯滝が湯川となって流れて戦場ヶ原を流れて湖面標高 1269m の中禅寺湖に流れ落ちるところに「龍頭の滝」がある。そして中禅寺湖から流れ落ちる滝が有名な「華厳の滝」になる。つまり標高の異なる 2 つの湖は滝と川によって結ばれており、これらは国道 120 号線を走ると比較的簡単に車を停めて見ることができるので、それらを次々に見物して降りてきた。



【上から見た龍頭の滝】

華厳の滝の高さは97m、日本三大瀑布のひとつで、残りの那智の滝（高さ133m）、袋田の滝（高さ120m、幅73m）に比べて大きき的には見劣りするが、日光という“地の利”と“華厳”という名前からだろうか、この華厳の滝が一番だと思っている人は意外に多い。

■世界遺産「日光の社寺」

よくある思い違いとしては、日光国立公園の範囲を世界遺産と思っている人が多い。華厳の滝、中禅寺湖などは世界遺産に登録されていない。日光の社寺というタイトルが示すように東照宮、輪王寺、二荒山神社の3つの施設だけが登録されている。

まずは輪王寺の本堂、少し離れた場所にある二荒山神社の本殿を拝観した。実はこの2つだけでも結構な時間がかかるが、時間の多くはやはり東照宮に割り当てる。



【輪王寺本堂】



【二荒山神社参道】

その東照宮にやってきた。神格化された自然環境を背景にその前面の傾斜面に社殿を位置する配置は日本の神社の代表的景観だと世界遺産登録で評価されている。そう言われてその傾斜の参道を歩くと、改めて東照宮の価値を実感した。



【東照宮の傾斜参道】

1300 円の拝観料を払って東照宮に入ると有名な「見ザル・聞かザル・言わザル」の三猿の彫刻が迎えてくれる。作者は不明だが、この 3 つの“〇〇しない”には深い意味があり、世渡りの常道ともとれる。

それにしても陽明門は見事だ。当時の徳川幕府の権力がどれほどのものだったかが良く分かる。陽明門は 12 の柱で支えられているが、そのうち 1 本の柱の様子が逆さになっている。建物は完成させるとそこから崩壊が始まると伝承されていたので意図的に完成させなかったという。私は今まで何度も陽明門に来ているがそのことを初めて知った。さすがに世界遺産検定 1 級を勉強したかいがあるというものだ。

有名な左甚五郎の作「眠り猫」は小さくて分かり難い場所にある。ヒデさんがヨコさんに「何処に眠り猫がいるでしょう？」とクイズを出していた。家康の霊廟に行く頭上にあって、初めてここを訪れたヨコさんはキョロキョロしていた。



【三猿】



【眠り猫】

“泣き龍”で有名な薬師堂がある。お堂の天井には龍の画が描かれており、その龍の頭の真下で拍子木を叩くと龍が鳴いたような残留音が聞こえる。よく考えたものだと 3 人は感動していた。

それにしても東照宮に薬師堂があるというのは不思議な話である。薬師堂とは薬師如来を祀ったお堂なので神社にあるのは解せない。住職の話を知るとこの薬師堂は東照宮の境内にあるが輪王寺の所有だということからややこしい。

実は昔は輪王寺も二荒山神社も神仏習合で一体の施設だったのである。ここ日光一帯は日本古来の土着の神社、修験道、仏教の施設が集まったもので、それらは一体化しておりいわば日本教の聖地だったので違いない。そんな場所に江戸時代になって家康の霊廟が造られ徳川家光が幕府の強大な力によって東照宮を豪華、巨大にした。しかしその後、明治政府は天皇の權威を高めて国をまとめる目的で神道を強化するために神仏分離令を出した。これによって日光は 3 つの施設に無理やり分離させられて二荒山神社、輪王寺、東照宮になった。

日光の寺社という世界遺産は人々の信仰と政治権力が複雑に絡み合った結果、現在に至ったと言っていいたろう。そういう目でこの遺産を見ると、また興味深い。

■かつての豪華な公共の宿

4泊目は日光霧降高原の「大江戸温泉物語日光霧降」に泊まる。

大江戸温泉物語という会社は経営難に陥った宿を安く買って、独自のノウハウで再生させて比較的安価で提供するというビジネスを展開している。同様な会社は伊東園、愉快リゾート、おおるりグループなどあるが、全国区は大江戸温泉物語だけだ。もっとも伊東園と愉快リゾートは同じグループ会社なので東日本と西日本で担当分けしている。

これらの中で大江戸温泉物語はターゲットの客層がやや上で、その分料金も多少高くなっている。

本日宿泊の施設はかつてメルモンテ日光霧降という郵便貯金総合保養施設だった。いわゆるメルパークと同様で1996年に総工費210億円かけて郵便貯金の運用利益で建設された。宿泊棟の他にプールや体育館・テニスコートもあり、当時は宿泊料1人14400円で営業していたが、年間7億円の赤字が出ていた。そこで2007年大江戸温泉物語が6.3億円で買い取り、現在に至っている。210億円が6.3億円になったこの売却は国会でも追及されニュースにもなった。公共の宿のこの手の売却事案は他にもたくさんあり、税金の無駄使いに憤りを感じるが、今回は当時の半額程度で泊まることになり、それはそれでありがたい。

森林や川などある広い敷地に何棟も建つ建物群は外から見ても中から見てもかなり斬新なデザインをしている。調べてみると建築界のノーベル賞と言われているプリツカー賞を受賞した建築家ロバート・ヴェンチャーリの設計だという。それゆえ特異なインテリアやエクステリアデザインが施してある。完全に従来の温泉ホテルとは一線を画す空間となっている。

空間を贅沢に使った異次元の近代建築は、元禄時代の積善館の翌日ということもあって、そのギャップが実に面白い。



【建物内部のレストラン部分】



【建物の外観の一部と霧降高原】

湯あがり処には無料ラウンジがあって、生ビール、アイスキャンディー、ジュースが飲み放題という嬉しいことになっている。もちろんおっさんたち全員、湯に入る前から湯あがり気分が生ビールを飲んでいた。

第五章 富士山

■翌日も世界遺産の富士山へ

日光から東北道、圏央道、中央道を使うと都心に入ることなく、5時間ほどで富士五湖周辺まで移動することができる。圏央道が開通する以前は到底考えられない行程だ。

北海道や九州など富士山から遠い地域から来た人を富士山に案内すると、ほとんどの人が富士山を見て驚くほどに感激してくれる。今回もそう思って富士山の雄姿を拝む予定を組んでいたが、雲に隠れてその雄姿をまだ見せてくれない。

富士五湖の全ての湖は世界遺産「富士山」の構成資産になっているが、私のお勧めは本栖湖だ。富士五湖の中で最も西にあって最も自然が残っているのが本栖湖で、私は何十回と本栖湖にキャンプに来ている。テレビ番組やコマーシャルなどで富士山と湖があってキャンプというシーンはほとんどが本栖湖で、千円札の裏の富士山の写真も本栖湖から撮ったものだ。

そして今、私たちは本栖湖畔に立っているが、富士山は一部分が時々見える程度だ。

ヨコさんの一眼レフは撮影準備万端なのだが、なかなかベストアングルにならない。

ところで世界遺産には文化遺産と自然遺産があり、その両方の要素を持つものは複合遺産と呼ばれている。日本にある世界遺産は文化遺産 19 件、自然遺産 4 件で、文化遺産が多く、残念ながら複合資産はない。

当初富士山は複合遺産として登録を目指していたが、自然遺産としては早々と落選した。その理由は世界の山々に比べると富士山の形や火山活動などはそれほど珍しくなく、さらにゴミ問題が深刻で自然遺産としてはハードルが高かった。

2013 年に文化遺産で登録された。名称は「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」となっている。富士山は自然遺産だと思っている人は意外に多いが、“信仰と芸術の源泉”の文化遺産である。

■富士山を望むコテージ

最終日の宿泊は富士山の西にある「休暇村富士」、私は以前からここに泊まってみたいと思っていた。

この宿の最大の魅力は、宿の前には田貫湖が広がっていることだ。田貫湖は関東に住んでいてもあまり知られていない湖だが、富士山の西山麓にある周囲 3.3km の小さな湖でキャンプ場なども整備されている。そのキャンプ場に私は数十回訪れており、いつかこの休暇村富士に泊まりたいと思っていた。

その理由は、この場所が日本で唯一ダイヤモンド富士を見ることができるからだ。ダイヤモンド富士はよく聞く言葉だが、厳密な定義を知っている人は意外に少ない。本物の富士山と湖面に映る逆さ富士の両方の富士山の頂上から陽光が出ている状態を言う。それゆえ富士山のほぼ西に位置している田貫湖だからこそ見ることができる。

休暇村富士は田貫湖の西側に面しているのでダイヤモンド富士を見る絶好の場所で、その時期は4月20日頃と8月20日頃になる。夜明けに大浴場からダイヤモンド富士を眺めることができるので大変人気がある。4月と8月以外でも人気があつて予約は取りにくい。今回はコロナ禍ということもあつて運よく予約することができた。

本日は休暇村富士のコテージに泊まる。コテージは田貫湖には面していないが、どのコテージからでも富士山を見ることができる。雰囲気の良いコテージで、1階にはベッドが2台、ロフトに布団が4組ある。

私たちは歩いて田貫湖を一周して、休暇村富士の大浴場で温泉に浸かりながら富士山を見ようとしたが、残念ながらまだ富士山は雲に隠れていた。

ところが私たちがコテージに戻って富士山に向かって乾杯をすると、何と富士山の裾野の方から雲が晴れてきた。しだいに綺麗に見え始めて、そして頂上付近の雲だけ残ってレンズ雲となった。こんな富士山はそうは見ることができないだろう。

ヨコさんの一眼レフのシャッター音が鳴り響いていた。



【コテージから撮った富士山とレンズ雲】

レンズ雲がかかる富士山を見ながら夕食だ。今夜はコテージ備え付けのホットプレートを使いBBQをすることになっている。ヨコさんが総料理長、ヨシさんが料理職人、ヒデさんは味見係、私は毒見役に徹し、最後の晚餐も大いに盛り上がった。

その盛り上がりの要因はやはり富士山だろう。富士山を見ながら食事し、くつろぎながら富士山を見て、そして語り合う。そんな富士見の酒や料理は本当に美味しい。

■ 白糸の滝

富士山の西山麓の静岡県富士宮市にある「白糸の滝」に立ち寄った。

この白糸の滝は修験者の長谷川角行が修行した場所ということで世界遺産富士山の構成資産になっている。富士山の豊富な地下水が、高さ 20m、幅 150mの湾曲した絶壁から大小数百の滝になって流れ落ちている。その名のように数百本の白い糸をたらしした様子をしており、ちょっと幻想的な世界を見せてくれる。

ところで白糸の滝というのは日本全国にいくつも存在する。ざっと調べただけでも 20 くらいあり、私もそのうちのいくつかに行ったが、この富士宮市の白糸の滝が一番見事だ。



【白糸の滝】

■ 浅間（せんげん）神社

同じく富士宮市にある「山宮浅間神社」にやって来た。ここは実に興味深い神社で、この神社には本殿がない。富士山の方向に祭壇を置いているだけというもので、富士山全体をご神体にした遥拝という信仰の形をとっている。

私たちもここで遥拝を体験したく臨んだが、残念ながら雲に隠れて富士山は見えない。それにしてもこの遥拝専用神社にヨシさんは感激している。やはり山男だ。

富士宮市の中心部にある「富士山本宮浅間神社」にやって来た。この神社は平城天皇の命で坂上田村麻呂が創建し浅間大神を祀って国内各地の浅間神社の総本山になっている。この神社を参拝すれば頂上に登ったようなものだと言われており、その理由は富士山の頂上はこの神社の所有地になっていて、頂上に奥宮がある。

ちょうど高校生の修学旅行の団体が参拝に来ていたので、そのことを教えてあげると「うっそー」、「本当?!」などと返ってきた。ちょっと良いことをしたような気持と若干の優越感を味わえた。これも世界遺産検定のお陰かもしれない。



【富士山本宮浅間神社】

富士宮駅にて、関西に戻る3人を見送って6日間の旅が終わる。
3人の顔から想像するに今回の旅の4つテーマも何とかこなしたようだ。

第六章 世界遺産検定

■世界遺産検定

私は現在、世界遺産検定2級の資格をもっており、たまたま今回の旅を企画する直前に世界遺産検定1級を受験した。それもあって今回の旅のテーマのひとつに世界遺産を選んだ。

ことのついでで申し訳ないが、世界遺産と世界遺産検定について説明しておこう。

世界遺産という言葉は広く知れ渡っており、国連の機関、ユネスコが提唱し「顕著な普遍的価値を持つ建造物や自然を人類の共通の遺産として保護する」というものだ。ユネスコはそれらを守ることは自分の属する文化を理解するだけでなく世界中の文化や地球の多様性を理解する知的営為であるとしている。1978年に登録が開始され、2021年6月時点で世界遺産の総数は1121件（文化遺産869件、自然遺産213件、その両方の要素を持つ複合遺産39件）になっており、日本でも文化遺産19件、自然遺産4件が登録されている。

ついでに書くと世界遺産登録には全部で10の登録基準があり、ひとつでもその顕著さが認められれば登録される。以下の10項目のうち①～⑥が文化遺産、⑦～⑩が自然遺産、両方あれば複合遺産と呼ばれることになる。

- ①人類の創造的資質や人間の才能
- ②文化の価値観の相互交流
- ③文化的伝統や文明の存在に関する証拠（人類の化石遺跡なども含む）
- ④建築様式や建築技術の発展段階
- ⑤独自の伝統的集落や人類と環境の交流
- ⑥人類の歴史上の出来事や伝統、宗教、芸術などと強く結びつく
- ⑦自然美や景観美、独特な自然現象
- ⑧地球の歴史の主要段階（恐竜や古代生物の化石遺跡も含む）
- ⑨動植物の進化や発展の過程、独自の生態系
- ⑩絶滅危惧種の生息域でもある生物多様性

対して世界遺産検定という言葉は初めて聞く人も多いだろう。その HP を開くと「世界遺産を通して国際的な教養を身に付け、人材育成を目指した検定で、2006年に始まって15万人以上が認定され、2014年からは文部科学省の後援事業になった」と書かれている。

この検定はユネスコとは無関係の日本国内の制度で、主催は NPO 法人世界遺産アカデミー、共催は株式会社マイナビ、後援は文部科学省、日本旅行業協会、全国旅行業協会、日本観光学会、日本国際観光学会、ANTOR-Japan（駐日外国政府観光局協議会）とある。日本人に世界遺産を知ってもらうことが主目的だが、商売の臭いもプンプンする。

■世界遺産「日光の社寺」

日光の社寺について世界遺産検定テキストを要約すると以下のように書かれている。

登録基準①天才的な芸術家の作品

登録基準④権現造りを完成させ、神格化された自然環境を背景にその前面の傾斜面に社殿を位置する配置は日本の神社の代表的景観

登録基準⑥徳川家康の霊廟と周囲の自然環境と一体化する日本独自の宗教空間

8世紀に勝道上人が開山し、室町時代に日光修験の最盛期を迎え、その後に家康を祀る東照社ができ、亡くなった人を神とする特有の信仰も加わり、家光の時代に「寛永の大造替」で今の規模の東照宮になった。輪王寺は仏や菩薩が神に姿を変えて現れる神仏習合の基本理念「本地垂迹説」で二荒山神社の祀神と同じと考えられた。東照宮は権現造り、二荒山神社は八棟造り。

■世界遺産「富士山・信仰の対象と芸術の源泉」

富士山について世界遺産検定テキストを要約すると以下のように書かれている。

登録基準③火山と共生、湧水への感謝など山岳信仰とそこから生まれた文化遺産

登録基準⑥独立成層火山の雄姿から文学作品に描かれ日本や日本文化を象徴する記号になっている。

火山活動が活発になった8世紀には富士山そのものを神聖視して、噴火を鎮める山宮浅間神社には本殿がなく富士山の方に祭壇を置いている。天皇の命で坂上田村麻呂が作った富士山本宮浅間神社は浅間大神（木花之佐久毘売命）を祀り、現在では2階建ての浅間造りに

なっている。噴火が沈静化した 11 世紀頃から修験道や山岳信仰が盛んになり登山巡礼で靈力を獲得し擬死再生を成しとげようとする登拝による独自の文化的伝統が生まれた。修験者長谷川角行は修行により覚醒し後に富士講と呼ばれる組織を作り、それを手配する御師も現れた。景観から万葉集、竹取物語、東海道五十三次、葛飾北斎の富岳三十六景など芸術作品のテーマにもなっている。

終章 旅の記録

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、何が良かったとか悪かったとか、各項目を 5 段階で評価する。今回は私ひとりの評価になっている。

評価の基準は、5 は驚き感動、4 は普通に良い、3 は可もなく不可もない、2 は普通に悪い、そして 1 は失望落胆としている。

総合点（平均値）で 5 段階の 75%、つまり 3.75 をオススメの目安としている。特に 4.00 を超えるには驚き感動が少なくとも 1 項目以上あるからオススメ度は高い。

「清泉寮」は温泉ではないので評価せず。

「草津ホテル」は泉質 5、風呂 5、料理 5、コスパ 3、サービス 4、建物・部屋 4、立地環境 4、総合点 4.29 になった。

泉質は低張性強酸性泉、西の河原源泉は pH2.1、源泉温度 49.3℃、万代源泉は pH1.6、源泉温度は 95.4℃となっている。

「積善館」は泉質 4、風呂 5、料理 4、コスパ 4、サービス 4、建物・部屋 4、立地環境 4、総合点 4.14 になった。

泉質はナトリウム-カルシウム塩化物硫酸塩温泉、pH は 6.6、湧出温度は 77℃となっている。

「大江戸温泉物語日光霧降」は泉質 3、風呂 4、料理 4、コスパ 5、サービス 4、建物・部屋 4、立地環境 4、総合点 4.00 になった。

泉質はナトリウム・カルシウム塩化物炭酸水素塩泉、pH は 6.3、湧出温度は 30℃となっている。

「休暇村富士」は泉質 4、風呂 4、料理一、コスパ 4、サービス 4、建物・部屋 4、立地環境 5、総合点 4.17 になった。料理は食べていないので未評価。

泉質はアルカリ性単純泉、pH は 10.0、湧出温度は 23℃となっている。

■旅の記録

実施は2021年7月11日（日）～16日（金）の5泊6日、その行程を以下に示す。

- ・1日目大阪10時出発、小淵沢駅15時30分で植木と合流、買い出し、清泉寮17時着
- ・2日目清泉寮9時出発、JR最高標高地点（標高1375m）、ビーナスラインで美ヶ原高原、草津ホテル16時着、千代の湯、地蔵の湯、西の河原露天風呂に入浴
- ・3日目片岡鶴太郎美術館、白旗の湯入浴、草津ホテル10時出発、品木ダム、チャツボミゴケ公園、旧太子駅、ハッ場ダム、四万温泉積善館15時着
- ・4日目積善館9時30分出発、日本ロマンチック街道経由で吹き割の滝、湯滝、龍頭の滝、華巖の滝、輪王寺、東照宮、二荒山神社、大江戸温泉物語日光霧降16時30分着
- ・5日目大江戸温泉物語8時30分出発、霧降高原、東北道・圏央道・中央道経由で本栖湖、休暇村富士15時30分着、田貫湖一周
- ・6日目休暇村富士8時出発、白糸の滝、山宮浅間神社、富士山本宮浅間神社、10時富士宮駅にて植木離脱、大阪15時着

■費用

総費用は一人当たり約72000円、内訳は宿泊代約48000円、交通費入場料など約12000円、昼食や酒代など約12000円になる。詳細は以下に示す。

宿の費用（夕食時の飲み物代含む）47819円

- ・清里高原 清泉寮 6595円（素泊まり）
- ・草津温泉 草津ホテル 17107円（2食付き、夕食時の飲み物代含む）
- ・四万温泉 積善館 10050円（2食付き）
- ・日光 大江戸温泉物語日光霧降 8667円（2食付き、夕食時の飲み物代含む）
- ・田貫湖 休暇村富士 5400円（素泊まり）

交通費、入場料、入浴料など 11790円

- ・西の河原露天風呂 500円
- ・片岡鶴太郎美術館 300円
- ・チャツボミゴケ公園 600円
- ・華巖の滝駐車場 320円／4
- ・日光の駐車場 500円／4
- ・東照宮拝観料 1300円
- ・白糸の滝駐車場 300円／4
- ・交通費電車代 4810円（自宅→集合場所、離脱場所→自宅）
- ・交通費車代 4000円（高速、ガソリン代調整済）

昼食代、買い出し（食事、酒、つまみなど）12220円